



おやじ東京会長
脇山幸之

私たち保護者は、様々なケースで子どもへの対応に関して“クレーム”をつけることがあります。昨今では“内容が理不尽な”ケースも頻繁に耳にするようになってきました。それらは“モンスターペアレント”と名づけられ、テレビドラマ化までされるほどに親からのクレームは社会現象にもなっています。

そこでおやじ東京では、保護者の立場からその“クレーム行為”について冷静に捉えてみようという今回の討論会を企画しました。身近な事例を通して、皆さんで率直に話をさせていただき、互いに感じている事を出し合いながら“クレームから見えてくる問題点”について考えていかねばと思います。

明解な答えを出すことは容易ではありませんが“クレーム行為”を取り巻く問題点について「親の立場から」冷静に考え、分析して「おやじとして出来ることは何か」「おやじの会としてやれることはないか」を探ってみたいと考えております。

*尚、その「モンスターペアレント」のドラマを制作された関西テレビに、今回の企画の参考資料としてドラマのスポットを借用させていただきたくご連絡をさせていただきましたところ、プロデューサーの吉條様より激励のお便りを頂きましたので以下にご紹介させていただきます。



おやじ東京の皆様へ

はじめまして関西テレビの吉條（よしじょう）と申します。わたくしも42歳、小学5年生の娘を持つれっきとした「おやじ」です。

ドラマ「モンスターペアレント」は子供たちにとって大切な学校についてあらためて考えるきっかけになればという思いから企画しました。きっと今日、皆様がこうして集まっていらっしゃる趣旨も同じだと思います。

私たちおやじも子供のため、学校のために何かができるはずです。

私が取材したモンスターペアレントの事例では、夫が妻の悩みを聞いてやるだけで防げたかもしれないトラブルもありました。今こそ強く優しいおやじの存在が必要なのです。子供の将来のため、日本の将来のため、みんなで考えていきましょう。

「そういえば昔モンスターペアレントなんて言葉があったね」と笑えるその日まで...

関西テレビ放送 プロデューサー
吉條英希



学者のコメントも入っている“モンスターペアレント”のドラマスポットを視聴した後、コメンテーターとゲストスピーカーを迎え、各々の立場から活発な意見交換が行われました。

グループに分かれての討議では、さまざまな現場の生の声が聞かれ現状の認識をする機会となりました。

会場を提供してくださった新宿区役所教育委員会の関係職員の皆さま方もご参加くださいました。



女性の方からは、母親としての立場や現場の声など、おやじとはまた違った角度から貴重なご意見をいただきました。

